

7 気が散りやすい子どもへの手立ての例

A 要因として、不注意（ADHD）のケース

学習環境を整理し、気を引くものを取り除く。
集中して取り組めるよう、机や周囲の環境を整える。
授業中に不注意が目立つ場合は、ポイント、キーワード等で注意を促す。
熱中できる好きなもの（こと）を教材に活用する。
集中して取り組めた時に、大いに誉める。
授業中の指示や説明は、ポイントを先に、短く簡潔に伝える。

B 要因として、片付けができないケース

整理がしやすいように持ち物を減らす。
片付ける場所を決め、余裕のあるスペースを確保する。
片付け先を大きくまとめて図示する。
ex：大きめのBOXに、中に入れるものがわかるようなシールを貼って、入れさせる。

C 要因として、聴覚過敏があるケース

授業環境を整える。（音刺激への配慮）
大きな音の重なる活動の時（体育祭の練習等）に、その場を離れる、綿球などで耳から入る音量を調節するなどの配慮をする。

D その他（家庭環境・疾患等）

よく気がつく点をプラスととらえて活動を用意する。ex：係活動短時間で取り組める課題を準備し、やり終えたことを評価するなどの経験を積ませる。
カウンセラーと連携してサポートを進める。
医療機関を紹介する。（皮膚疾患、腎疾患等）